

報道関係各位

平成 26 年 3 月 13 日  
くすりの適正使用協議会

## くすりの適正使用協議会

# 第 33 回理事会 / 平成 25 年度通常総会を開催 理事長に黒川氏を再任し中期活動計画を継続

くすりの適正使用協議会(理事長:黒川達夫)は、3月12日(水)に「第33回理事会および平成25年度通常総会」を開催し、協議会事務局から提出された議案ならびに報告がすべて可決承認されたことをお知らせいたします。詳細は別添の関連資料をご参照下さい。

なお、役員人事は下記の通り決定しました。

### ■新役員

理事長	再任	黒川 達夫 (くろかわ たつお)	慶応義塾大学 薬学部 教授
副理事長	再任	藤原 昭雄 (ふじわら あきお)	
監事	再任	村井 安 (むらい やすし)	Meiji Seika ファルマ株式会社
	再任	三輪 亮寿 (みわ りょうじゅ)	弁護士

### ■平成 26 年度の事業活動・予算

当協議会は、国民のさらなる『医薬品リテラシーの育成と活用』に向けた「中期活動計画 12-16 ~RAD-AR 理念の実現に向けた~」を策定し進めております。平成 26 年度が中期計画の第 3 年度であることから、過去 2 年間の活動実績を踏まえ、より「選択と集中」を目指した事業計画を設定しました。

- |                   |                 |         |
|-------------------|-----------------|---------|
| ①くすり教育活動          | ②くすりのしおりコンコーダンス | ③データベース |
| ④ベネフィット・リスクマネジメント | ⑤適正使用情報検討       | ⑥広報活動   |

※詳細は別紙をご参照ください。

### ■平成 26 年度事業 実施に向けての黒川理事長のコメント

「この秋の薬事法改正で、くすりの適正使用について国民が果たすべき役割が明記されました。高齢化社会の中で、健康に関する関心、限りある医療資源を上手に使うために、当協議会の適正使用の啓発活動は時宜を得た活動と言えます。3 年目に入る中期活動計画を一步一步進めるなかで国民、患者さんのくすりの適正使用に関わる役割をどう果たしていくのかを引き続き検討していきたい」と抱負を述べました。

### — 本件に関するお問い合わせ先 —

くすりの適正使用協議会 広報部 梅田・安井

東京都中央区日本橋堀留町 1-4-2 日本橋 Nビル 8 階

TEL:03-3663-8891 FAX:03-3663-8895 E-mail:[info@rad-ar.or.jp](mailto:info@rad-ar.or.jp) URL:<http://www.rad-ar.or.jp>

## 【くすりの適正使用協議会について】

くすりの適正使用協議会は、医薬品に関する様々な情報を提供することを通じ、“医薬品を正しく理解し利用することを通して、人の健康保持と QOL の向上に寄与すること”を目的に、1989 年に研究開発指向型製薬企業 11 社によって設立されました。（現在会員会社 20 社、賛助会員 1 社、個人会員 3 名）

創設当初より、医薬品の本質を評価する学問「薬剤疫学」の普及、医薬品適正使用情報「くすりのしおり®」の提供など、医薬品の本質の理解促進と正しい使い方の啓発活動を行ってまいりました。

2012 年度からは、社会で“個々のニーズに合った医療の高度化”が求められていることを念頭におき、新たな行動計画を策定しました。キーコンセプトを「医薬品リテラシー\*の育成と活用」と定め、医療専門者と国民双方に安全で品質の優れた医薬品使用、延いては医療確保ができる価値を創造し続ける活動を行っています。

\*医薬品リテラシー：医薬品の本質を理解し、医薬品を正しく使用する能力

協議会ホームページ：<http://www.rad-ar.or.jp>

## 【くすりの適正使用活動をささえる会員】

### [製薬企業会員]

アステラス製薬(株) アストラゼネカ(株) エーザイ(株) 大塚製薬(株) キッセイ薬品工業(株) 協和発酵キリン(株)  
興和(株) 塩野義製薬(株) 第一三共(株) 大正製薬(株) 大日本住友製薬(株) 武田薬品工業(株)  
田辺三菱製薬(株) 中外製薬(株) 東和薬品(株) 日本新薬(株) ノバルティス ファーマ(株)  
ノボ ノルディスク ファーマ(株) マルホ(株) Meiji Seika ファルマ(株) (20 社)

### [賛助会員]

シミック株式会社 (1 社)

### [個人会員]

大野 善三(医学ジャーナリスト) 三輪 亮寿(弁護士) 古川 隆(医薬品コンサルタント) (3 名)



2014年5月29日、  
協議会は設立25周年を迎えます。

## 平成 26 年度事業計画・予算

くすりの適正使用協議会

(各項目での金額は、資料作成費などの直接的費用を表す)

中期計画・第 3 年度である、平成 26 年度事業計画・予算立案について、過去 2 年間の実績を踏まえ、中期目標に対する事業計画を設定した。

- |  |                                      |
|--|--------------------------------------|
| <b>1. 国民の医薬品への意識をレベルアップ</b>  | <b>16,250 千円</b>                     |
| (1)国民が必要とする情報を 3 方向から継続的に強化  | 10,150 千円                            |
| ①国民が必要とする医薬品の知識・情報の具体的な内容を検討して明らかにし、医薬品リテラシーの育成を目指した啓発資材の開発や活動手段を確立していく。     | (くすり教育委員会)                           |
| ②今までの協議会活動の成果等を用いて、適正使用への啓発活動を継続実施する。  | (事務局/広報部)                            |
| ③くすりのしおり注射剤版(病棟薬剤師/在宅医療)を取り上げた動画を作成し、注射剤版の活用方法の啓発を図る。                        | (くすりのしおりコンコーダンス委員会)                  |
| (2)適正使用情報提供への対応  | 2,500 千円                             |
| 患者さんや一般生活者が正しい医薬品情報を入手しやすいように、製薬企業のインターネットを利用したホームページでの適正使用情報の自主ガイドラインを作成する。 | (適正使用情報検討委員会)                        |
| (3)公教育における「くすり教育」のフォロー   | 3,600 千円                             |
| 高校用 DVD 教材を活用した「医薬品教育」が行われ、高校生の医薬品への知識が深まり、医薬品が適正に使用されることを目指す。               | (くすり教育委員会)                           |
| <b>2. 医療専門者への「医薬品リテラシー」の知識・技術の向上と医療エビデンスの創出・公開を支援</b>                        | <b>11,700 千円</b>                     |
| (1)ベネフィット・リスクマネジメントの調査研究と結果の公表   | 2,750 千円                             |
| 海外の最新情報を調査検討し、内容をセミナーなどで活用する。  | (ベネフィット・リスクマネジメント/リスクコミュニケーション啓発委員会) |

**(2)薬剤疫学及び関連分野の啓発** 3,020 千円

---

薬剤疫学入門セミナーなどを継続して開催する。

(ベネフィット・リスクマネジメント/リスクコミュニケーション啓発委員会)

**(3)データベースの拡充と活用** 5,930 千円

---

アカデミア及び会員に使用成績調査等データベースの特徴を理解させ、協議会のデータベースを使用した研究成果を発表する。

(データベース委員会)

**3. ベネフィット・リスクコミュニケーションを推進** 2,250 千円

---

医療現場(特に薬局)で「くすりのしおり」が有効活用され、しおりを使った服薬指導が増えることで、患者さんが必要としている情報提供を行う。『薬剤師と患者さんのコミュニケーション動画』の薬剤師アンケート結果を学会などで発表し、くすりのしおりのコンコーダンス実践における重要性やそれ自体の認知度の向上を目指す。

(くすりのしおりコンコーダンス委員会)

**4. 活動展開への基盤構築** 8,300 千円

---

戦略的 PR 活動をすることで協議会活動が報道され、協議会活動の理解が深められ、賛同者を得ることにより、将来の会員拡大につなげる(36 企業を目標)。

また、協議会会員社にかかわらず活動を広く知ってもらえるように、RAD-AR News の内容を充実させ、読者の満足度の向上を図る。

(事務局/広報部)

## 中期活動計画 12-16

### ～RAD-AR 活動の実現に向けて～

#### 【目標】

国民が、

- 医薬品を理解し、適正に使用する。
- 病気の治療に自分の意思を反映させる。
- バランスのとれた医薬品情報(効き目と安全性)を獲得する。
- セルフメディケーションを正しく実践する。

#### 【基本戦略の具体的取り組み】

##### 1. 国民の医薬品への意識をレベルアップ

当協議会の活動を医薬品業界の社会貢献と位置づけ、イニシアティブをとって、国民へ医薬品の情報提供と教育によって医薬品リテラシー獲得を目指します。

(1)国民が必要とする情報を 3 方向から継続的に強化

- ①従来のくすり教育を発展させ、子供から大人までの幅広い層を対象に医薬品の全体像を示す情報「医薬品の知識」を提供します。
- ②報道記事などによる医薬品の情報について客観的な見方を提示します。
- ③くすりのしおり<sup>®</sup>を積極的に活用して、製薬企業からの国民への情報提供を支援します。

(2)適正医薬品情報提供への対応

患者も医療チームの一員として治療に参加する環境を醸成するために、必要とされる医薬品情報と、それが提供される基盤作りをします。

(3)公教育における「くすり教育」のフォロー

学校では平成 24 年度に医薬品教育が導入され、それに伴って高等学校でのそれが平成 25 年度からレベルアップされます。これに呼応して、教育現場で必要とする「教材」の開発と提供を進めます。

##### 2. 医療専門家への「医薬品リテラシー」の知識・技術の向上と医療エビデンスの創出・公開を支援

(1)リスクマネジメントの調査研究と結果の公表

海外を含めリスクマネジメント(ベネフィット・リスクコミュニケーションを含む)に関する最新情報を調査、検討し、その結果を公表します。それを、製薬企業、医療専門家、更には一般国民にとっての適切なリスクマネジメント実

践につなげていきます。また、医薬品リテラシー育成の一助にします。

#### (2)薬剤疫学および関連分野の啓発

薬剤疫学に加えて、その応用と考えられるリスクマネジメント等について、医療専門者、製薬企業の方々に啓発する場を提供します。また、出前研修を行います。

#### (3)データベースの拡充と活用

既存の降圧薬と高脂血症治療薬のデータベースを拡充するとともに、企業会員だけでなく、アカデミアも対象にそのデータベースを利用した薬剤疫学研究を勧誘し、エビデンス創出を図ります。

### 3. ベネフィット・リスクコミュニケーションを推進

ベネフィット・リスクコミュニケーションとコンコーダンスを通じて、結果として患者（家族）が自己の薬物治療に意志を反映させられるよう方策を検討します。

### 4. 活動拡大への基盤を構築

ジェネリック医薬品やOTC医薬品を含めた広範囲の医薬品を対象とします。

また、対外的に専門家と連携し、活動計画の実効性を高めるとともにメディア等と連携して、社会に活動を公表するなど透明性を確保していきます。対内的には、一致団結して協議会の活動に取り組む体制とします。

こうした連携のもと、社会の医薬品リテラシーの向上を図り、賛同者（会員）増につなげます。

以上